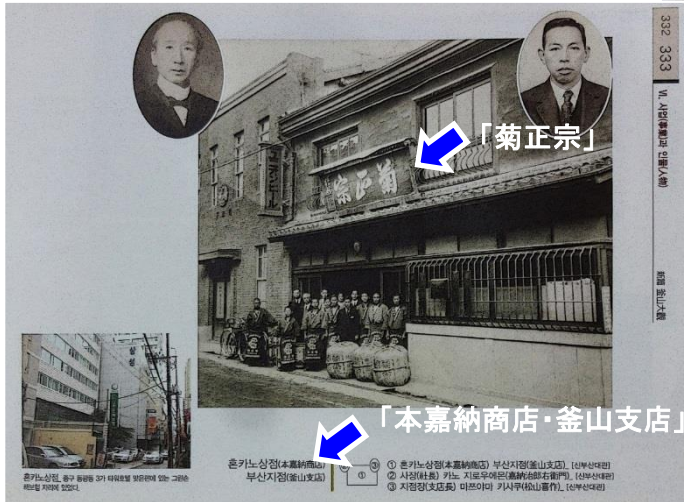




→サケ watching in 韓国の釜山 (Busan, Korea) 現代編から続く.....

釜山における、戦前の日本人による清酒造り:釜山近代歴史博物館にて

- 戦前までの朝鮮(韓国と北朝鮮)では、日本人が清酒を造っていた。終戦時点で119の清酒蔵元があった。朝鮮半島で清酒造りが始まったのは釜山からで、少なくとも1880年代にさかのぼれる。「日本国外で、歴史上、世界で最も早くサケ醸造が行われたのは釜山」である。他の海外各国で清酒醸造が始まったのは、アメリカと台湾が1900年代、ブラジルでは1930年代。
- 釜山近代歴史博物館で、釜山における日本人の蔵元情報をお尋ねしたところ、学芸員のリュウさんがこの写真資料の書籍を教えてくれた。上の二枚は「本嘉納商店(「菊正宗」)・釜山支店」と「山邑酒造(「櫻正宗」)・釜山支店」、そして現在のその場所を示すページ。この両社は、京城(ソウル)と馬山に醸造所を設けていたので、釜山は販売店。



- 下の写真は、釜山で清酒を醸造していた「福田醸造場」のもの。1883年(明治16年)に清酒醸造を始めた。終戦時に朝鮮で営業していた119の清酒蔵元で「もっとも創業年が古い蔵元」。
- 1883年から終戦の1945年まで62年間、釜山で清酒醸造を続けたので、戦前の朝鮮で「もっとも長期間継続した蔵元」でもある。
- 1883年は、日本による韓国併合(1910年)の実に27年前。福田醸造場より1~2年早く酒の醸造を始めた人の記録もあるが、これらはすぐに廃業したようだ。「福田醸造場」はある程度の規模で相当期間継続した海外の清酒メーカーとしては「世界最古の蔵元」といえる。





釜山における、戦前の日本人による清酒造り: 地図による考察

①昭和12年 (1937年)

福田醸造場



- ①昭和初期の住宅図で「福田醸造場」の場所を見る。現在の「釜山近代歴史博物館」(日本統治時代の「東洋拓殖」)の西南のブロック、現在のチャガルチ市場にある「大興寺」(日本統治時代当時の「本願寺」)の北側のブロック、にあった事がわかる。当時の住所は「釜山府西町」。
- ①昭和12年の福田醸造場の場所を→②明治41年の地図→③明治34年の地図→④江戸末期の倭館の地図、とさかのぼると、倭館・西館の「副特送使大庁」の建物であったことがわかる。(「倭館」については最終ページ参照)
- 実際、「福田醸造場の建物には倭館の建物であった、宋氏(倭館を管理していた対馬藩藩主)の家紋が壁に残っていた」、という記述が残っている。写真の建物は、倭館の建物そのものなのかもしれない。
- (お願い)釜山における、戦前や明治期における酒造情報をお持ちの方は是非お知らせください。

②明治41年 (1908年)

③明治34年 (1901年)

④倭館の地図 (C1800-1850年)

倭館
副特送使大庁

picture : 釜山近代歴史博物館の展示、地図:①昭和12年発行の「大日本職業別明細図」、②③は国立国会図書館所蔵の地図、④はウェブ上に「釜山近代歴史博物館館長の羅さんからいただいた」として掲載されていた倭館の建屋配置と現在の地図を重ねたもの。なお、地図はすべて上が西。



釜山のクラフトビール(ビール醸造所)

- 韓国でも多くの小規模ビール醸造所が開業している。これは、釜山に隣接する東萊(トンネ)という温泉町にあるクラフトビール。「ホテル農心(ノンシム)」という大型旅館に併設されたブルワリーレストラン。ブランド名はグラスに書かれたとおり、Hurshimchung Brau (ホシンジョン・ブロイ=虚心庁ブロイ、「虚心庁」は、ホテル農心に付属する大型スパ施設の名前)。
- 温泉の湯上り客がターゲット。日本で言えば湯布院ビールやオラホビールのイメージだが、席数規模はゆうに数倍。醸造設備は、ドイツのキャスパリ・シュルツ。



- 東萊温泉は、新羅時代には王がおとずれたという由緒正しい温泉。
- 1898年に日本は朝鮮と賃借契約を結び、日本人専用の温泉旅館を作った。1909年には釜山から温泉場までの市電、東萊(とうらい)線も開通。日本人の朝鮮旅行では人気スポットだったようだ。絵葉書は戦前の東萊温泉のもの。
- クラフトビールのホテル農心も、もともとは日本人の富豪、豊田福太郎という人が作った「蓬萊館」という旅館だったそう。

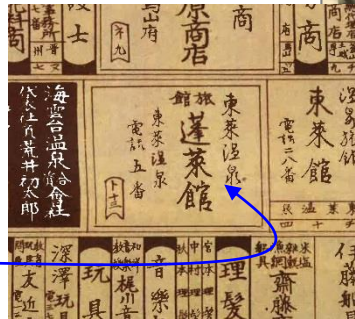


朝鮮東萊温泉神社



東萊面温泉浴場

sake watching in Busan/Korea



「蓬萊館」(昭和12年発行の「大日本職業別明細図」から)

post cards = ex-libris Kita's



Titbits #1 釜山の「倭館」における、酒醸造

- 釜山中心部にある「龍頭山」では、観光ポイントの「李舜臣の像」(豊臣秀吉の朝鮮出兵のとき日本軍を撃退した英雄)と「龍頭山タワー」に目を奪われて目立たないが、広場の石碑に、日本語を含む4ヶ国語で、かつて龍頭山にあった「倭館」のことが記されている。
- 「倭館」とは、江戸時代、対馬藩が所管した日本人居住地域。日本を代表して貿易、外交を行うため、塙で囲まれたなかに男性ばかり500人くらいが暮らしていた。多くの建物があり、中には「酒屋」もあって、この酒屋は日本から運ばれた清酒の販売のほか、おそらく日本酒の醸造も行ってたと思っています。
- 倭館は1876年(明治9年)に日本政府が引き継ぎ、以降この付近は日本人居住区になった。6-7ページの福田醸造所は、日本人居住区時代の造り酒屋。



모포
의
관
의
10
여
다.
입
이
10
명
설
치

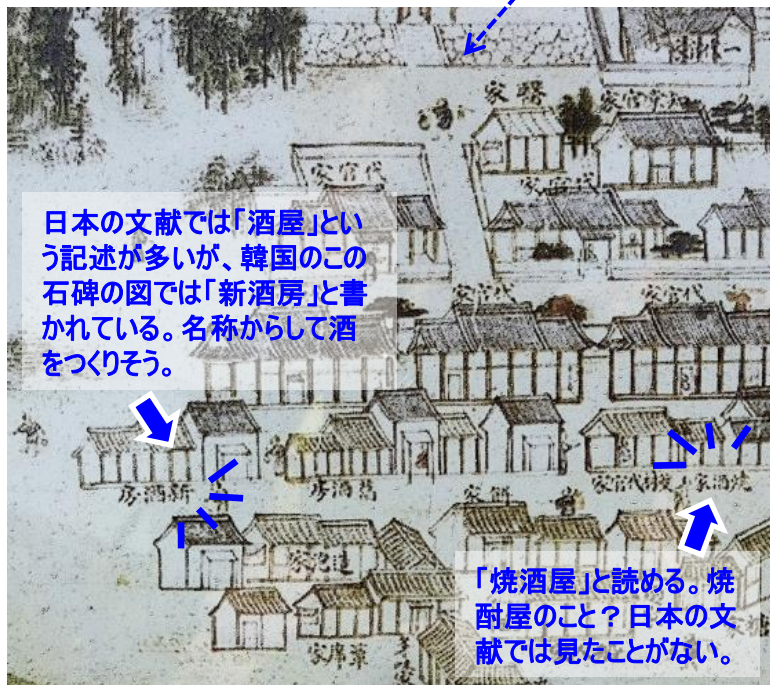
草梁倭館

龍頭山公園とこの周辺は、朝鮮時代後期に草梁倭館があつた所である。朝鮮時代の倭館は朝鮮と日本が外交と貿易を行つた唯一の場所であつた。そして、倭館の各種施設は、朝鮮政府が設置し、東萊府が出入を管理・統制した。

草梁倭館(1678年~1876年,規模約330,000㎡)は、17~18世紀において、朝鮮と日本の交流の中心地であり、北東アジア物流の中心地であつた。その際草梁倭館は、北方の大陸文物と南方の海洋文物が交流する、仲介貿易地としても重要な役割を担当した。草梁倭館は、約200年間維持されたが、1876年以後日本人専管居留地になつた。

草梁倭館

在朝鮮后期,草梁倭館位于今釜山广域市龙头山公园一带,朝鲜和日本在此地进行



日本の文献では「酒屋」という記述が多いが、韓国のこの石碑の図では「新酒房」と書かれている。名称からして酒をつくりそう。

「焼酒屋」と読める。焼酎屋のこと？日本の文献では見たことがない。

Titbits #2 釜山の「おでん」

- 漁業が盛んだった釜山は「おでん発祥の地」だそう。観光ガイドには載っていないが「おでん博物館」なるものがある。釜山で練り物を製造するサムジン食品という会社が運営する。
- 釜山の練り物は確かにに旨い。1ページ記載の「大阪おでん」も美味しく、日本酒にあっていた。おでんとサケのコンビネーションをよしとする愛飲者は、それだけを理由として釜山を訪問する価値がある。
- おでん博物館に飾ってあったセピア色の写真はたぶんこの会社の皆さんの園遊の図。1960~70年代だろう。一升壺(清酒が焼酎だろう)が何本も並ぶ。よき時代。





Titbits #3 韓国・慶州の「仏国寺」にて

- 新慶州駅まで、高速列車KTXで釜山から30分。慶州にある「仏国寺」はユネスコ世界遺産で、韓国一の仏教寺院として多くの観光客が訪れる。建物や仏像も立派だが、屋根の下の韓風極彩色が美しく印象的。
- 朝鮮には1500年代以前の木造建築がほとんど残っていない。仏国寺も1700年代の再建。理由は1592-1598年の秀吉の朝鮮出兵で、そのとき全国レベルで重要な建築を焼き払った。奪われる前に朝鮮側が焼き払ったケースもあると言われるが、いずれにせよ原因は日本。
- 写真は仏国寺内の案内板のひとつ。英語では「Japanese invasion (日本の侵攻)で焼失」と書いているが、日本語では「日本の侵攻」ではなく「文禄の役で焼失」と記載。他の看板で、日本語表記部分を貼り紙で修正してあるものもいくつかあった。日本人観光客に配慮して、「日本の侵攻」という表現をやめたのではないか、、、と想像した。
- ここを訪れる日本人は、「文禄の役」=「秀吉の朝鮮侵攻」であることはもちろん、秀吉が朝鮮に侵攻した事すら知らない人が多数派ではないだろうか。韓国人は例外なく秀吉の侵攻を知っている。知らない日本人がいることは、韓国人にとってもいらだたしい事だろうと思う。



자하문 | 紫霞門
Jahamun Gate

대웅전 구각의 정문, 백운교와 청운교를 오르면 자하문을 지나 석가모니 부처님이 계시는 대웅전 무덤으로 들어가게 된다. 자하문(자하)은 석가모니 부처님의 몸에서 발산되는 상서로운 자를 뜻하는 자(紫)와 빛을 나타내는 문(霞)이라는 의미이다. 9세기 중엽 신라 재상이었던 김대성이 불국사를 건립했을 때 처음 세워져 양정역할 중인 1593년 문에 닫으며, 1781년에 앞면 3칸, 옆면 2칸 규모의 원각지붕 건물로 다시 세워졌다.

Jahamun Gate, or Golden-purple Glow Gate, is the main entrance of Daeungjeon Hall district. "Jaha" from its name indicates the golden-purple glow radiating auspiciously from the Buddha's body. First built in the mid-8th century, the gate, however, was burnt down during the Japanese invasion in 1593. The present building was reconstructed in 1781.

大雄殿区域の正門。白雲橋と靑雲橋を登りこの門をくぐると、中央に大雄殿のある釈迦如来の仏国土が広がる。紫霞とは仏様の威徳を色鮮やかに輝く光明に喩えた表現である。八世紀中期、仏国寺の創建時に建立され、朝鮮宣祖26年(1593)の文禄の役で焼失された。現在の建物は、1781年に再建されたものである。



史跡方広寺石臺および石塔 (昭和44年4月12日指定)



「耳塚(鼻塚)」

この塚は、16世紀末、天下を統一した豊臣秀吉がさらに大陸にも支配の手をのぼそうとして、朝鮮半島に侵攻したいわゆる文禄・慶長の役(朝鮮史では、壬辰・丁酉の倭乱、1592~1598年)にかかる遺跡である。

秀吉麾下の武将は、古来一般の戦功のしるしである首級のかわりに、朝鮮軍民男女の鼻や耳をそぎ、塩漬にして日本へ持ち帰った。それらは秀吉の命によりこの地に埋められ、供養の儀がもたれたというこれが伝えられる「耳塚(鼻塚)」のはじまりである。

「耳塚(鼻塚)」は、史跡「御工塚」などとともに京都に現存する豊臣秀吉の遺構の一つであり、塚の上に建つ五輪の石塔は、その形状がすでに寛永2年(1643)の古絵図にみとめられ、塚の築成から程ないころの創建と想われる。

秀吉が惹き起こしたこの戦争は、朝鮮半島における人々の根強い抵抗によって敗退に終わったが、戦役が遺したこの「耳塚(鼻塚)」は、戦乱下に被った朝鮮民衆の受難を、歴史の遺訓として、いまに伝える。

京都市

市史 豊国寺(方廣寺) 正 石塔 及び 石臺(1969年 4月 12日 指定)

「귀 무덤(코 무덤)」

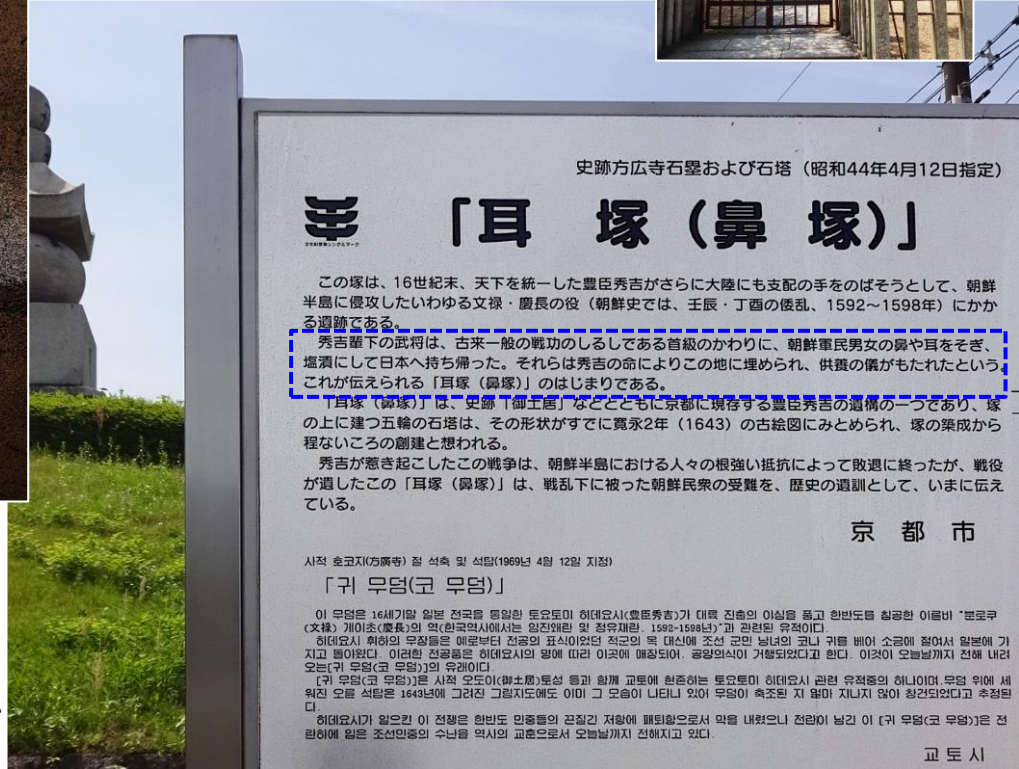
이 무덤은 16세기말 일본 전국을 통일한 토요토미 히데요시(豊臣秀吉)가 대륙 진출의 야심을 품고 한반도를 침공한 이른바 "분류쿠(文禄)·개이조(慶長)의 역(한국역사에서는 임진왜란 및 정유재란, 1592~1598년)"과 관련된 유적이다.

히데요시 휘하의 무장들은 예로부터 전공의 표식이었던 적군의 목 대신에 조선 군민 남녀의 코나 귀를 베어 소금에 절여서 일본에 가지고 돌아왔다. 이러한 전공품은 히데요시의 명에 따라 이곳에 매장되어, 공양 의식이 거행되었다고 한다. 이것이 오늘날까지 전해 내려오는 「귀 무덤(코 무덤)」의 유래이다.

「귀 무덤(코 무덤)」은 시저 오도(御土)로서 천고 교토에 현존하는 토요토미 히데요시 관련 유적 중의 하나이며, 무덤 위에 세워진 오도 석탑은 1493년에 개건 그림자에도 이미 그 모습이 나타나 있어 무덤이 축조된 지 얼마 지나지 않아 창건되었다고 추정된다.

히데요시가 일으킨 이 전쟁은 한반도 민중들의 끈질긴 저항에 패망함으로써, 막을 내렸으나 전란이 남긴 이 「귀 무덤(코 무덤)」은 전란에 입은 조선민중의 수난의 역사의 교훈으로서 오늘날까지 전해지고 있다.

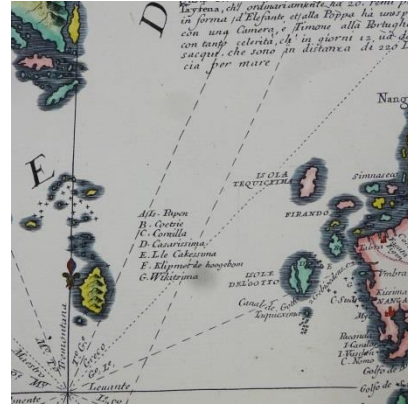
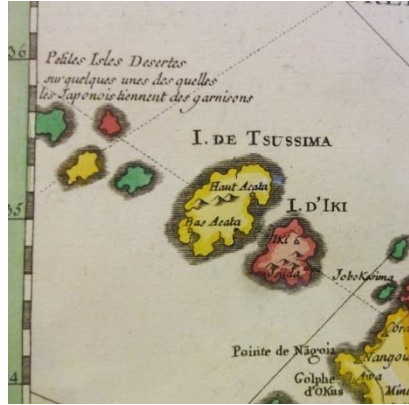
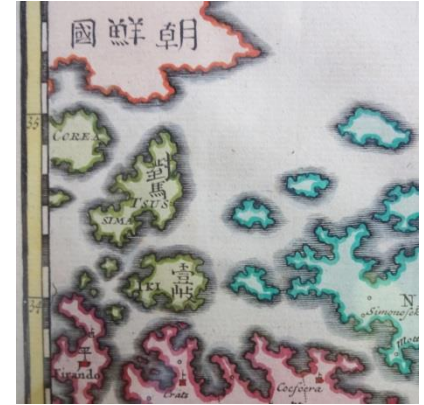
교토 시



Titbits #4 京都の「耳塚」にて

- 日本の京都国立博物館の近くに「耳塚」という史跡がある。看板によれば「秀吉の朝鮮半島侵攻で、配下の武将が戦功のしるしに、朝鮮軍民の鼻や耳をそぎ、塩漬にして持ちかえった。この地に埋められ供養の儀がもたれた」
- 「2万人分の耳と鼻が埋められている」(wikipedia)とのこと。軍民だけでなく、当然民間人も多いだろう。(そっとする話だが、当時日本では、高級軍人はその首を取ったが、足軽などは鼻や耳をとってその数を戦功の証にしたそうだ。)
- お隣、韓国との歴史は、近代だけでなく中世もよく知らねばならないと感じた。

- 晴れた日は対馬から釜山が見える。日本と朝鮮は古来、対馬・杵岐を中継通過点として交流した。
- 15～18世紀の様々な西洋古地図で朝鮮と九州の間を拡大してみた。対馬と杵岐は、形や位置は現実と異なるが、概ね存在。釜山はでてこないが、釜山に人が集まり、市街化し始めたのは19世紀。



maps = ex-libris Kita's

sake watching in Busan/Korea (appendix 2 / 160522/tk)